

阿武隈山地に残された豊かな自然環境

～川内村の震災復興と住民の帰還に向けた取組～



自：自然共生

資：資源循環

キーワード

震災復興／地方創生／観光振興／食／ブランド化

フィールド

東北地方
(福島県)

森里川

実施体制

川内村／あぶくま川内



アクションの目的

- ・震災からの復興
- ・地域活性化
- ・自然とのふれあい

アクションの背景

川内村は、阿武隈山地の最高峰「大滝根山」の東斜面に位置し、標高500～600メートルの高原がその大部分を占めている。桧山、大滝根山を源として流れる木戸川は、川内村の豊かな森林資源を涵養しながら東流し、檜葉町で太平洋に注ぐ。また、木戸川の上流部はイワナが住む清流として古くから知られており、現在でも川内村は、阿武隈山地の森が育む地下水を生活用水として利用する「上水道のない村」であり、地下水を積極的に活用している全国の市町村が参加する「安心安全でおいしい地下水連絡協議会」にも加入しており、村全体で自然の恵みを大切に様々な活動を実施している。

川内村では、平成5年から木戸川上流部の水資源を活かしたイワナの養殖に取り組み、平成7年にはイワナ養殖の拠点として、「いわなの郷」を整備し、(株)あぶくま川内が食堂と釣り堀事業をスタートさせ、東日本大震災以前には、年間30万匹の稚魚を養殖するまで事業を拡大してきた。

また、川内村には、モリアオガエルの重要な生息地として昭和16年に国指定の天然記念物となった平伏沼があり、古くから平伏沼もモリアオガエルも、村人によって大切に保護されてきた。震災復興と住民帰還を進める川内村にとって「かえるかわうち」のスローガンは、森里川を豊かに保ち、モリアオガエルを大切にしてきた、はるかな昔から続く村人のアイデンティティでもある。

アクションの内容

【「いわなの郷」再オープンに向けた取組】

○東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故では、川内村も一時全村避難を強いられ、イワナの養殖管理ができない状況となった。その結果、7割以上の稚魚を失う打撃を受けたが、役場の職員と養殖担当技術者が避難先から定期的に養魚場を訪れて、残存のイワナの養殖を継続し、養殖復活の礎を残した。

○「いわなの郷」は、浜通りの住民を中心に親しまれていたが、震災後の全村避難でいったん閉鎖を余儀なくされた。しかし、全村避難の時期でも行っていたイワナの放射性物質のモニタリング調査の結果により、2013年6月には再オープンを果たし、以前の賑わいを取り戻しつつある。

【新たなブランドの開発】

○震災後に川内村に移住してきた住民のアイデアによるイワナ加工品(ソト燻製、イワナのピエゾ等)の開発・販売など

アクションのポイント

◎毎月、養殖イワナを福島県内水面水産試験場に送り放射性物質のモニタリング調査を行い、2年以上にわたり、不検出(ND)が継続したため、2013年6月に再出荷が認められることとなった。

◎「いわなの郷」には「体験交流館」が併設されており、村観光協会の企画で、川内村の豊かな自然を活かした自然体験プログラムや平伏沼のモリアオガエル生息地観察会を実施するなど、来村人口の増加及び、雇用の創出に向け地域の自然資源を活かした活動を行っている。

アクションの効果と今後の展開

○震災後に川内村に移住した住民と自治体が協同して地域経済を活性化させ、更なる雇用の受け皿を用意することで、震災復興と住民の帰村を加速化させる。

○いわなの郷と周辺施設を拠点として、豊かな自然資源を活かした自然体験プログラムの充実や広報活動により県内外から観光客を誘客し、観光振興と地方創生を図る。

福島県川内村役場

〒 979 - 1292 福島県双葉郡川内村大字上川内字早渡11-24

○ TEL / 0240-38-2111 ○ FAX / 0240-38-2116 ○ E-Mail / mitsugi.igari@vill.kawauchi.lg.jp

○ web / <http://www.kawauchimura.jp/>